



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



やしるジッパーの皆さん

ハンモックで遊ぶ子どもたち

八代っ子自然ひろばでのソーラン流し

八代っ子自然ひろばの手作り遊具

豊かな自然環境の中で

子どもと自然と地域を愛する元気人

八代の素晴らしい自然環境の中で「地域の子どもは地域で育てる」をモットーに、日々奔走する元気な男性を紹介します。

三好重康さん(66歳)日高町八代

毎週土曜日の午前、八代っ

子自然ひろばには、元気な子どもたちの声が響き渡ります。

やしるジッパー誕生

この八代っ子自然ひろばを県の補助事業を受けて整備し、運営を担うのは同区の高齢者(ジジ・ババ)で組織する「やしるジッパー」の12人。そして、このひろば整備のために私用地を提供し、会の発足当時(平成18年)から代表を務めるのは三好重康さんです。

地域の子どもは地域で育てる

自然が大好きな三好さんは、長年勤めた会社を定年退職後、自然環境を生かして何かをやりたいと思っていました。そのタイミングに、県の「子どもの冒険ひろば事業(整備・運営費の補助)」の募集がありました。「本来、地域でやるべきこと、そのきっかけを県の補助事業が作ってくれた」と三好さんは笑います。

ひろばには、手作りの滑り台やブランコ、竹で作った見晴らし台、メンバーで建てた工作小屋や、棚田の跡をうまく利用したピオトープなど、さまざまな遊び場が整備されています。毎週土曜日の午前、テ-

マを決めて集ま

り、おじいちゃんやおばあちゃん

の知恵

が生かされた遊びが子ども

たちに伝えら

れています。集まった子どもたちは、自然の中で伸び伸びと遊びを楽しみながら、人との付き合い方を学んでいます。

「自然の中に行くと子どもはけんかをしないんだよ。自然がすべてを受け入れてくれるからね」と三好さんは話します。

確かに、遊びの中で自然に年長者がリーダーになり、学校ではなかなか体験できない縦のつながりができていました。

「里地里山にピザ窯を！プロジェクト」当選

さまざまな取組みにチャレンジするやしるジッパーでは、生物多様性に満ちた里地里山の再生・保全団体を応援するために創設された「里山どんぐり募金」のプロジェクト第1弾「里地里山にピザ窯を！プロジェクト」に応募し、見事当選。昨春、ひろばに全国第1号のピザ窯が誕生しました。



キリン福祉財団から助成金受領

また、今年5月には、地域の子育てにかかわるボランティア活動を支援する「キリン福祉財団」の助成対象団体に選ばれ、助成金を受領しました。「頑張りが認められ光栄。ほかの地域でも活動が広がってほしい」と三好さんは話します。

チームワークの良さがとりのやしるジッパー。11月には、毎年100人以上もの参加者でにぎわう大イベント「ひろばまつり」を開催します。

「県の補助も5年で終了。これからが勝負。この取組みを若い世代に伝え、続けていきたい。1人では地域は変わらないが、みんなで力を合わせれば変えられる。そして、子どもたちがここで自然に触れ、体験を通して実感したことが、将来役に立ってほしい」と話す三好さん。子どもたちからもらうパワーで元気いっぱい。生き生きと輝いていました。



▲いつも優しい目で子どもを見つめる三好さん

広報マンがやってきた!

幼稚園編

10

小坂幼稚園

(出石)

〈園児31人〉



出石川の下流に開けた田園地帯の中に位置する小坂幼稚園。年2回、園児たちが特別養護老人ホーム出石荘を訪れ交流しています。

9月30日、今年2回目の交流が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

上手にできるかな?!

出発前の幼稚園。園児たちは、ダンスや歌など、最後の練習を行いました。今回は、演目の紹介にも挑戦する園児たち…。自然と力が入ります。練習を終えると、衣装に着替え、準備を済ませます。少し緊張気味の園児やリラックスクススしている園児など…。上手にできるか、楽しみです。



おじちゃん、おばあちゃんへ
元気のプレゼント!!

「今日は、元気をプレゼントします」と、園の先生の言葉で始まった

交流では、園児たちが元気に歌ったり、踊ったり…。上手にできた園児たち。たくさん練習をした成果が出たみたいですよ。

一緒に手遊び、楽しいね!

園児たちは、おじちゃんやおばあちゃんの前に移動して、一緒に手遊びを楽しみました。「大きな栗の木



の下で♪「松ぼっくりがあつたとさ〜♪」などと歌いながら、手と手を合わせ…息もピッタリです。



ありがとう!
素敵なプレゼント!!

「いつまでも元気でいてください。また来ます」と最後に元氣よくあいさつした園児たち。玄

関先に
出てみ
ると、
ポン菓
子屋さん
の姿が…。
演技のお
礼にと、作
りたてのポン菓子をもらう園児たち。おじちゃんやおばあちゃん



たちも一緒にほお張り、みんな素敵な笑顔になりました。



笑顔の輪

聴く人に感動を与えるハーモニー
女声合唱団コスモス(豊岡)

11月7日(日)午後2時から、出石文化会館ひほこホールで開催する第13回リサイタルに向けて、楽しくも厳しい練習に取り組むのは女声合唱団コスモスの皆さんです。

「団を継続していくため若い団員を増やしたい。そして、挑戦的な曲に取り組みたい」と、大井さんはさらなる高みを目指し、意気込みます。

平成18年には、おおむね65歳以上を対象にシニア部を結成し、年齢に関係なく参加しやすい体制が整いました。

この合唱団は、昭和54年1月に、豊岡小学校PTAコーラスのOGが中心となり「豊岡市女声合唱団」として結成しました。現在、団員は63人。毎週月曜日に、豊岡地区公民館などで練習に励んでいます。

団長の大井小枝子さん(城南町)は「歌の好きな人たちの集まり。みんなハーモニーのとりこなんですよ」と話します。

結成の年に初めて開催された但馬合唱祭や、豊岡市民音楽祭、兵庫県合唱祭には毎年欠かさず参加しています。また、リサイタルは、結成翌年から2年に1回程度開催しています。平成10年の、結成20周年を機に団名を「女声合唱団コスモス」に改名しました。結成当時から指揮と指導を務める藤原紘道さんは「指導



▲練習ではいつも真剣そのもの